



令和2年11月12日

各位

会社名 株式会社アプリックス
代表者名 代表取締役社長 根本 忍
(コード: 3727、東証マザーズ)
問合せ先 常務取締役 倉林 聡子
(TEL. 050-3786-1715)

令和2年12月期通期連結業績予想の修正並びに 営業外費用及び特別利益の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、令和2年2月25日付「令和2年12月期通期連結業績予想の公表に関するお知らせ」にて公表した令和2年12月期（令和2年1月1日～令和2年12月31日）通期の連結業績予想（以下「期首予想」）を下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。また、当第3四半期連結累計期間において営業外費用及び特別利益を計上いたしますので、併せてお知らせいたします。

記

1. 令和2年12月期通期連結業績予想の修正（令和2年1月1日～令和2年12月31日）

	売上高	営業利益
	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	2,502	50
今回修正予想 (B)	3,056	△36
増減額 (B) - (A)	554	△87
増減率 (%)	22.1	-
(ご参考) 前期実績 令和元年12月期)	843	△177

2. 修正の理由

(1) 売上高（上方修正）

売上高については当初予想数値を上回る見込みとなりましたが、主な理由としてはソリューション事業における当社連結子会社であるスマートモバイルコミュニケーションズ株式会社（以下「SMC」）のMVNOブランド「スマモバ」とモバイルWiFiルーター「THE WiFi」の堅調な販売に伴い、販売時に獲得する端末料金等の「イニシャル売上」、また月額利用料等の積み上げである「ストック売上」のどちらも期初計画を上回る見込みとなったこと等の理由によるものです。

(2) 営業利益（下方修正）

営業利益については当初予想数値を下回る見込みとなりました。下方修正の主な理由としては、令和2年8月13日付「令和2年12月期第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」における「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」内や、同日付「2020年12月期第2四半期決算補足説明資料」内にて記載した、テクノロジー事業における受託開発案件においてすでに取り組んでいるいくつかの案件に関してプロジェクト期間が長期化したことに伴い売上計上時期が来期に期ズレしたことや、下期に見込んでいた開発案件が来期に期ズレもしくは縮小したこと、製品販売のセールス・ミックスが当初予算策定時と変化したことに伴い利益が減少したこと等によるものです。また、ソリューション事業において当期中の売上計上を見込んでいたいくつかの案件について、人的リソース拡充等の体制整備や取引先関

係各所との調整等に想定以上の時間を要したこと等の理由により当初計画通りに進まず、当期中の売上計上が困難となったことも営業利益の減少要因の一つとなりました。

なお、上記「(1) 売上高 (上方修正)」で記載した通り、ソリューション事業における「スマホ」等の販売が堅調に推移したことから売上高は上方修正となる見込みですが、本年5月以降に発生したモバイルWiFiルーター「THE WiFi」の通信速度低下等の状況に対処すべく、設備の増強やサポート体制の強化、速度低下により利用に著しい影響が出ているお客様に対する代替機の貸与や解約手数料の免除等の取り組みを優先し、その結果これらの対応に要する費用が想定以上に増加したため、前述の営業利益のマイナス分を補うまでには至らず、営業利益については下方修正という結果となりました。

以上のことから、連結売上高については当初予想数値 2,502 百万円から 554 百万円増加し 3,056 百万円となるものの、連結営業利益については当初予想数値 50 百万円から 87 百万円減少し 36 百万円のマイナスとなる見込みとなりました。

セグメントごとの業績予想に関する状況は以下のとおりです。

<売上高 (セグメント別) >

	テクノロジー事業	ソリューション事業
当初予想 (A)	百万円 820	百万円 1,682
修正予想 (B)	595	2,461
増減額 (B) - (A)	△224	778
増減率 (%)	△27.3	46.3

<営業利益 (セグメント別) >

	テクノロジー事業	ソリューション事業
当初予想 (A)	百万円 248	百万円 90
修正予想 (B)	81	109
増減額 (B) - (A)	△167	18
増減率 (%)	△67.3	20.8

なお、管理部門における費用等、全社的に発生する費用として 226 百万円 (当初見込み額 288 百万円) の発生を見込んでおります。その結果、当期連結営業利益については上記で記載したとおり 36 百万円のマイナスとなる見込みです。

また、ソリューション事業の主な構成事業となる SMC の令和 2 年度における業績予想数値については、以下のとおりです。

<SMC 業績予想数値 >

	売上高	営業利益
当初予想 (A)	百万円 1,479	百万円 95
修正予想 (B)	2,362	162
増減額 (B) - (A)	883	67
増減率 (%)	59.7	70.5

SMC については、上記のとおり売上高及び営業利益いずれも上方修正となりました。主な要因は、上記「(1) 売上高 (上方修正)」で記載したとおり、MVNO ブランド「スマモバ」とモバイル WiFi ルーター「THE WiFi」の堅調な販売に伴い、販売時に獲得する端末料金等の「イニシャル売上」、また月額利用料等の積み上げである「ストック売上」のどちらも期初計画を上回る見込みとなったことや、昨年から進めている代理店を介した直販やブース販売等の既存販路から OEM 販路への転換が効果を発揮したこと等の理由によるものです。

(注) 上記の各修正予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって上記の各数値と異なる結果となる可能性があります。

3. 営業外費用の計上 (連結)

(1) 売上債権譲渡損 (連結)

当社及び SMC において、売上債権の早期回収を目的として利用したファクタリングの手数料合計額 7,412 千円を、売上債権譲渡損として連結で営業外費用に計上しました。

4. 特別利益の計上 (連結)

令和 2 年 7 月 29 日付「連結子会社における会社分割 (吸収分割) によるアドベント株式会社の WiMAX 及びモバイルネットワークに関する事業承継に関する吸収分割契約締結及び特別利益 (負ののれん発生益) の計上の見込みに関するお知らせ」でお知らせしたとおり、SMC において実施した吸収分割に関連して、デューデリジェンス業務委託費等の取得関連費用を含めた取得対価と承継する資産と負債の差額 4,137 千円を、負ののれん発生益として連結で特別利益に計上しました。

以上